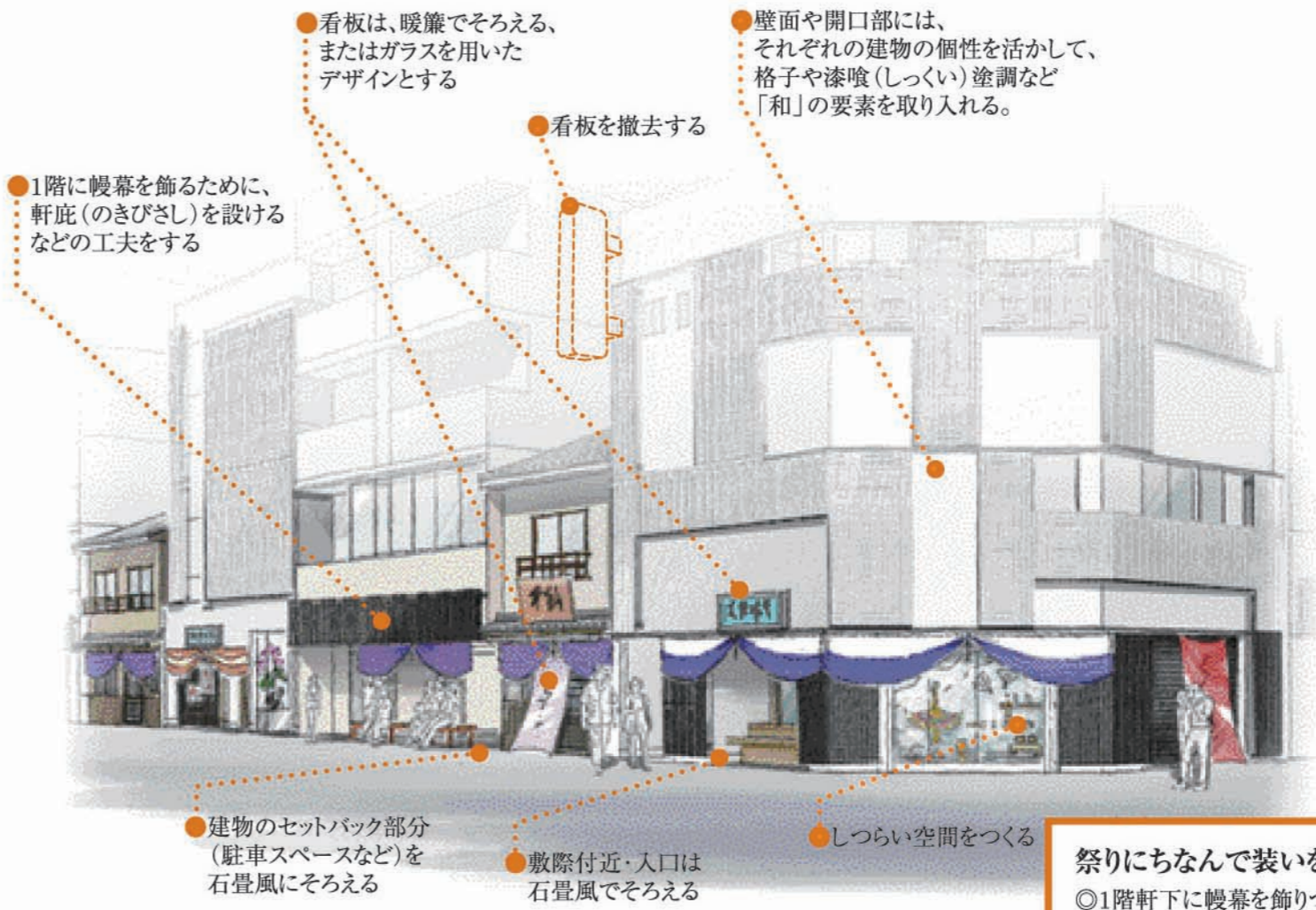




推奨エリア:天満宮周辺



- 看板は、暖簾でそろえる、またはガラスを用いたデザインとする
- 壁面や開口部には、それぞれの建物の個性を活かして、格子や漆喰(しっくい)塗調など「和」の要素を取り入れる。
- 看板を撤去する
- 1階に幔幕を飾るために、軒庇(のきびさし)を設けるなどの工夫をする
- 建物のセットバック部分(駐車スペースなど)を石畳風にそろえる
- 敷地付近・入口は石畳風でそろえる
- しつらい空間をつくる

祭りにちなんで装いを替える

- ◎1階軒下に幔幕を飾りつける
- ◎しつらい空間の展示替えをする
- ◎建物のセットバック部分を見物場所として工夫する

1 通りのしつらいを整える

しつらい空間をつくる

1階の入口付近にガラス張りの「しつらい空間」を設置して、まちを訪れる人をもてなす場にします。そこには、天満ならではの歴史や文化、祭りや四季にちなんだ飾りつけを工夫します。



看板や石畳など和の要素で「おそろい」にする

看板暖簾(のれん)を軒先につるす、敷地や入口付近のたたきを石畳風にするなど、建物の足元まわりを和の要素で「おそろい」にして、訪れる人を迎えるにふさわしいまちなみにします。



2 祭りの日にはまちなみも装う

軒下に幔幕を飾りつける

祭り際には、1階の軒下に幔幕を飾りつけます。

祭りを楽しむ場としてオープンスペースを演出する

通りに面したマンションのオープンスペースやガレージなどは、祭りの際に見物や休憩の場として活用します。



- 天満ならではの飾り**
- ◎造り物(つくりもん)
祭礼などに人や物を造り飾りつけた細工物のこと。かつての天満の造り物としては、市之側の牡丹(ぼたん)の紙細工や蜆(しじみ)の藤棚などが有名。近年これらの復元の取り組みが進んでいる。
 - ◎御迎人形
元禄期(1688~1704)から、天満宮の御旅所近くの各町では、趣向を凝らした風流人形をまちかどに展覧したあと、「御迎船」に飾り立てた。これが「御迎人形」のはじまり。造り物とともに天神祭に華を添えた。
 - ◎祭りの道具や飾り(提灯・扇子・衣装)
天神祭を支える「講」や各町では、提灯や扇子、衣装など、それぞれデザインを工夫してあつらえている。流鏝馬神事の際には、協議会が主体となり、流鏝馬の舞台となる天神筋に笹と絵馬短冊を飾っている。
 - ◎天満ガラス
天満は大阪のガラス発祥の地。宝暦年間(1751頃)に長崎で製法を学んだ播磨屋清兵衛(はりまやせいへい)が天満宮の鳥居前で玉屋(ガラス屋)を開いたのがはじまり。



しつらい(設い)とは とのえ、準備すること。「室礼」とも書き、晴れの日に調度をたて室内外を飾ること。今はあまり使わない言葉ですが、町家では四季毎や晴れの儀式的日に部屋の内外の装いを替えたりしました。

天満の四季暦	冬	お正月 えびす祭り	春	天満宮の梅祭り 雛祭り 大川の桜	夏	七夕 天神祭 地蔵盆	秋	流鏝馬神事 お月見
--------	---	--------------	---	------------------------	---	------------------	---	--------------